

(別紙様式1-2)

道徳教育地域支援委託事業実施計画書（令和2年度）

1 学校の概要

- (1) 学校名 三豊市立詫間中学校
(2) 所在地 香川県三豊市詫間町詫間 5796 番地 1
(3) 学年別児童生徒数及び学級数、教員数 (令和2年4月1日現在)

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援学級	児童生徒数計	教員
2学級 65名	4学級 100名	4学級 93名	2学級 6名	264名	27名

2 研究主題等

- (1) 研究主題 豊かな心を育て、ともに未来を切り拓く道徳教育
一人間としての生き方を考える道徳科の授業の工夫

(2) 研究主題設定の理由

道徳の教科化が始まった昨年度、本校で四国小・中学校道徳教育研究大会が開催された。本校においては、平成28年度に「道徳プロジェクトチーム」を発足させた。平成28年度に全校生徒対象で実施したアンケート調査の結果、約3割の生徒が「道徳科の授業が好きか」の問に対して否定的な回答をした。その理由として、約半数の生徒が、「自分の考えを書いたり、意見を言ったりするのが苦手だから」と答えた。また、教師の意識調査でも、道徳科の授業に関する課題の多くが「発問」や「話し合い活動」に関するものであった。

以上の結果を踏まえて、平成29年度から「3つの道徳チーム」を編成し、全教員が学年の枠を超えていずれかのチームに所属し、学校全体で道徳教育を推進する体制を充実させてきた。その結果、道徳の時間の確保や校内指導体制が整い、道徳教育に対する教師の意識も高まってきた。

そこで、これまでの研究の成果を継続・進化させるために、道徳科の授業の質の向上を図ることとした。具体的には、道徳的価値について自分自身との関わりで考えたり、多面的・多角的に考えたりできるように工夫し、生徒が人間としての生き方を考えることができる学習指導の在り方について研究を進めてきた。本年度は、更なる授業力の向上を目指し実践を重ねるとともに、評価の在り方を検討し、その妥当性・信頼性を高めていきたいと考える。

(3) 研究内容及び方法

- ① 道徳プロジェクトの会
- ② 全教員で取り組む道徳科の授業研究（校内研修・アンケートの実施）
- ③ 「朝の道徳」（イ〜なの日）の改善・充実と道徳通信や校内掲示による啓発
- ④ 自己を見つめ、問い直す「振り返り」の設定
- ⑤ 評価の工夫

3 成果の評価方法（検証方法）

- 道徳ノート、振り返りシート（前・後期）、教師による授業記録等から生徒の変容を見取る。
- 道徳科の授業に関する意識調査や毎学期末の学校評価（職員、生徒、保護者）の結果を検証する。

4 研究成果の普及方法

- 道徳通信やPTA新聞、各種通信等を活用し、保護者や地域に発信する。
- 香中研道徳部会夏季研修会にて、研究の成果や課題等について発表する。